

病院長 田中 真紀

女性にとって、乳がんは大きな関心事です。今年の5月に発表されたアメリカの女優アンジェリーナ・ジョリーさんのニュースはセンセーショナルな話題となりました。乳がん発症に関わる遺伝子を持つことが分かり、両側乳腺切除と乳房再建を行ったと発表し、さらに卵巣卵管切除を行う予定とも伝えられています。

乳がんの家族歴があるから、特殊な遺伝子があるからといって必ず乳がんになるわけではありません。遺伝性乳がんとは、遺伝子が原因で乳がんを発症した場合をいいます。乳がん全体の5～10%といわれています。乳がん・卵巣がんでは、現在のところBRCA1とBRCA2という2つの遺伝子がみつかっており、これらの遺伝子に変異を起こした場合、高率にがんを発症します。

BRCA1陽性の場合には若年発症の乳がんが多く、40歳を過ぎての卵巣がんのリスクが高まります。また、ホルモン感受性（エストロゲンレセプター・プロゲステロンレセプター）やHer2蛋白発現のない所謂トリプルネガティブ乳がんといわれる乳がんの割合が高い特徴があります。一方、BRCA2では通常の乳がんと変わらず多くの場合ホルモン感受性を持っています。

遺伝子の検査は採血検査ですが、保健診療の適応がありませんので、約25万円の自己負担となります。遺伝子検査の結果が心理的に及ぼす影響を考慮して、検査を受ける前には遺伝カウンセリングを受けることをお勧めします。

遺伝子変異があった場合、乳腺切除手術は90%の予防ができますが、これも保健診療の適応ではありません。それに、必ず乳がんを発症するとは限りません。まず、20歳頃から自己検診を行い、通常の検診開始年齢(40歳)より若い25歳頃から毎年マンモグラフィやMRIによる検診(自費検診)を受けることが勧められています。すでに乳がんを発症している人は反対側乳房や温存手術後の乳房を定期的に検査することが大切です。

今後は、遺伝子疾患の研究がますます進歩するでしょう。それに伴い、遺伝子発見が社会的な差別につながらないよう法的体制の準備も必要となります。



【遺伝性乳がんの可能性がある方】

- ・家系内に乳がんや卵巣がんの患者が複数いる
- ・若年で発症している
- ・乳がんと卵巣がんの両方にかかったことがある
- ・両側性、多発性の乳がん
- ・トリプルネガティブ乳がん
- ・男性乳がん

▶▶ 当院は2013年7月9日、日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会 乳房再建用インプラント / エキスパンダー実施施設に認定されました。

